

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載日
第1章					
11	2) 細菌の微細構造と外部構造 (1) 9行目	…低分子（分子量900Da以下）の…	…低分子（分子量900以下）の…		2022/9/30
79	側注 菌交代症 2 行目	… <i>Clostridi um difficile</i> や…	… <i>Clostridi oides difficile</i> や…		2022/9/30
91	表1-B-41		※1参照		2022/9/30
101	側注 指定感染症 …	指定感染症（新型コロナウイルス）	指定感染症	タイトル変更	2022/9/30
101	同 4行目以下	…（COVID-19）が指定感染症として定められた。新型コロナウイルスは日本を含む全世界でパンデミック状態となっており、国内ではおおむね二類感染症相当の対応が行われている。	…（COVID-19）が当初指定感染症として定められた。その後、法的な位置づけのために新型インフルエンザ等感染症に分類された。		2022/9/30
101	側注 感染症指定医療機関 8行目	…第一種感染症指定医療機関は55医療機関（103床）が指定されている（2019年4月1日現在）。	…第一種感染症指定医療機関は56医療機関（105床）が指定されている（2020年10月1日現在）。		2022/9/30
102	表1-B-45		※2参照		2022/9/30
第2章					
116	6ストレプトコッカス・ニューモニエ 形態と染色 2行目	…多糖体からなる莢膜をもち、84の血清型に…	…多糖体からなる莢膜をもち、114の血清型に…		2022/9/30
117	病原因子① 1行目	莢膜血清型：現在63種、93種類の血清型が…	莢膜血清型：100種、114種類の血清型が…		2022/9/30
120	Iナイセリア属 3行目	…存在し、 <i>N.gonorrhoeae</i> や…	…存在し、 <i>N.gonorrhoeae</i> や…		2022/9/30
148	表2-A-c1-8		※3参照		2022/9/30
169	写真2-A-d1-1 図 説 1行目	…グラム陰性に染まる厚いムコ多糖体が観察…	…グラム陰性に染まる厚いムコイドな莢膜多糖が観察…		2022/9/30
178	Iブルセラ属 生化学的性状 2行目	…アニリン系色素（チオシン、塩基性フクシン）による…	…アニリン系色素（チオニン、塩基性フクシン）による…		2022/9/30
202	2光発色菌群 1)マイコバクテリウム・カンサシー 6行目	…特にリファビシンがキードラッグである。	…特にリファンビシンがキードラッグである。		2022/9/30
203	4非光発色菌群 1)マイコバクテリウム…（中略）… compex ; MAC	1)マイコバクテリウム…（中略）… compex ; MAC	1)マイコバクテリウム…（中略）… compex ; MAC	見出し訂正	2022/9/30
203	同 2行目	… <i>lulare</i> compex (MAC) とよんでいる。…	… <i>lulare</i> complex (MAC) とよんでいる。…		2022/9/30
218	Iアクチノミセス属	Iアクチノミセス属 (Genus <i>Actinomyces</i>)	Iアクチノミセス属 (Genus <i>Actinomyces</i>)	見出し訂正	2022/9/30
258	表2-B-4		※4参照		2022/9/30

262	主なムーコル類の鑑別性状 3行目	…ムーコル類は隔壁をもたないことから, …	…ムーコル類は隔壁を形成しない（ごくまれに形成）ことから, …		2022/9/30
第3章					
320	②使用中断時および終了時 b. 1 行目	終了時は, 元栓→活栓→ガス調節ネジ→空気調節ねじの順で閉じる。	終了時は, 空気調節ネジ→ガス調節ネジ→活栓→元栓の順で閉じる。		2022/9/30
333	表3-C-1		※5参照		2022/9/30
334	同		※6参照		2022/9/30

図表

※1	以下の表への差し替えをお願いいたします(クラス3BSCまでは陽圧スーツ…をクラス3BSCまたは陽圧スーツ…に訂正)。																									
表 1-B-41 病原体の危険度分類（リスク群分類）に相応する主な項目のバイオセーフティレベル																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>リスク群分類</th> <th>実験室の BSL 分類</th> <th>対象となる実験室（例）</th> <th>作業の手技および運用</th> <th>安全機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基準実験室 BSL1</td> <td>一般教育・研究施設</td> <td>GMT</td> <td>特になし, 開放型実験台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基準実験室 BSL2</td> <td>医療関連施設, 臨床検査室, 医療関連教育施設</td> <td>GMT, PPE, バイオハザード標識表示</td> <td>BSC (エアロゾル発生の可能性がある場合), 開放型実験台</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>封じ込め実験室 BSL3</td> <td>特殊検査・研究施設</td> <td>BSL2 に加え, 専用保護衣, 入域の制限, 一方向性の気流</td> <td>全作業を BSC またはそのほかの封じ込め機器を用いて行う</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高度封じ込め実験室 BSL4</td> <td>高度特殊検査・研究施設</td> <td>BSL3 に加え, 入室時のエアロック, 退出時のシャワー, 特別廃棄処理</td> <td>クラス III BSC または陽圧スーツ+クラス II BSC, 両面オートクレーブ (給排気は濾過) の使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>BSL : biosafety level, GMT : 標準的な微生物学の実験手技, PPE : 個人用防護具, BSC : 生物学的安全キャビネット.</p>		リスク群分類	実験室の BSL 分類	対象となる実験室（例）	作業の手技および運用	安全機器	1	基準実験室 BSL1	一般教育・研究施設	GMT	特になし, 開放型実験台	2	基準実験室 BSL2	医療関連施設, 臨床検査室, 医療関連教育施設	GMT, PPE, バイオハザード標識表示	BSC (エアロゾル発生の可能性がある場合), 開放型実験台	3	封じ込め実験室 BSL3	特殊検査・研究施設	BSL2 に加え, 専用保護衣, 入域の制限, 一方向性の気流	全作業を BSC またはそのほかの封じ込め機器を用いて行う	4	高度封じ込め実験室 BSL4	高度特殊検査・研究施設	BSL3 に加え, 入室時のエアロック, 退出時のシャワー, 特別廃棄処理	クラス III BSC または陽圧スーツ+クラス II BSC, 両面オートクレーブ (給排気は濾過) の使用
リスク群分類	実験室の BSL 分類	対象となる実験室（例）	作業の手技および運用	安全機器																						
1	基準実験室 BSL1	一般教育・研究施設	GMT	特になし, 開放型実験台																						
2	基準実験室 BSL2	医療関連施設, 臨床検査室, 医療関連教育施設	GMT, PPE, バイオハザード標識表示	BSC (エアロゾル発生の可能性がある場合), 開放型実験台																						
3	封じ込め実験室 BSL3	特殊検査・研究施設	BSL2 に加え, 専用保護衣, 入域の制限, 一方向性の気流	全作業を BSC またはそのほかの封じ込め機器を用いて行う																						
4	高度封じ込め実験室 BSL4	高度特殊検査・研究施設	BSL3 に加え, 入室時のエアロック, 退出時のシャワー, 特別廃棄処理	クラス III BSC または陽圧スーツ+クラス II BSC, 両面オートクレーブ (給排気は濾過) の使用																						

※2 以下の表への差し替えをお願いいたします(新型インフルエンザ等感染症を補訂)。

表 1-B-45 「感染症法」による感染症の分類と届け出 (2018 年 (平成 30 年) 5 月 1 日改正)

分類	感染症	届け出	指定診療施設
	感染力や罹患した場合の 一類感染症 重篤性などに基づく総合 (7 疾患) 的な観点からみた危険性 がきわめて高い感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ベスト、マールブルグ病、ラッサ熱	特定感染症 または第一種 感染症指定 医療機関 特定感染症 または第一種、 第二種感染症 指定医療機関、 結核指定 医療機関
	感染力や罹患した場合の 二類感染症 重篤性などに基づく総合 (7 疾患) 的な観点からみた危険性 が高い感染症	急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群 (MERS)、鳥インフルエンザ (H5N1)、鳥インフルエンザ (H7N9)	特定感染症 または第一種、 第二種感染症 指定医療機関、 結核指定 医療機関
	感染力や罹患した場合の 三類感染症 重篤性などに基づく総合 (5 疾患) 的な観点からみた危険性 は高くないものの、特定の職業に就業することに より感染症の集団発生を 起こしうる感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、バラチフス	ただちに
	E 型肝炎、ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)、A 型肝炎、エキノコクス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キヤサヌル森林病、Q 热、狂犬病、コクシジョイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクニット病		
	飲食物などの物件を介してヒトに感染し、国民の健康に影響を与えるおそれのある感染症 (44 疾患)	フルエンザ (H5N1, H7N9) を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本ウマ脳炎、ハンドラウイルス肺炎候群、B ウィルス病、鼻疽、ブルセラ症、ヘネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発疹チフス、ボツリヌス症、マラリア、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レブトスピラ症、ロッキー山紅斑熱	特に指定なし
五類感染症 (全数把握) (24 疾患)	国が感染症発生動向調査を行って、その結果に基づき必要な情報を国民や医療関係者などに提供・公開していくことによって、発生・拡大を防止すべき感染症	アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎 (E 型及び A 型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く)、急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ヘネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)、クリプトスピロジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルニア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘 (入院例に限る)、先天性風疹症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、パンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風疹、麻疹、薬剤耐性アシнетバクター感染症 RS ウィルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)、クラミジア肺炎 (オウム病を除く)、細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、ベニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性線膿菌感染症	7 日以内に （侵襲性 ウマ脳炎 及びリフトバレー熱を除く）、クリプトスピロジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルニア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘 (入院例に限る)、先天性風疹症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、パンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風疹、麻疹、薬剤耐性アシネットバクター感染症 RS ウィルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)、クラミジア肺炎 (オウム病を除く)、細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、ベニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性線膿菌感染症
五類感染症 (定点把握) (25 疾患)			週単位または 月単位
新型インフルエンザ等 感染症	既に知られている感染性の疾病 (一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症を除く) であって、感染症法の規定を準用しなければ、当該疾病的蔓延により国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの	既に知られている感染性の疾病 (一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症を除く) であって、感染症法の規定を準用しなければ、当該疾病的蔓延により国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの	ただちに
新感染症	ヒトからヒトに伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状または治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病的蔓延により国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの		特定感染症 指定医療機関

※3 以下の表への差し替えをお願いいたします(*Proteus vulgaris*の性状を一部訂正)。

表 2-A-c1-8 主な *Proteus* 属, *Morganella* 属, *Providencia* 属の主な生化学的性状

菌種	インドール産生	VP 反応	硫化水素産生 / TSI	リジン脱炭酸	オルニチン脱炭酸	アルギニン加水分解	尿素分解	D Nase 活性 / 25°C	運動性 / 36°C	ONPG テスト	糖分解			
											ブドウ糖からのガス产生	乳糖	白糖	
<i>Proteus mirabilis</i>	-	d	d	+	-	+	-	+	d	+	-	+	-	[-]
<i>Proteus vulgaris</i>	+	-	[-]	[+]	-	-	-	+	[+]	+	-	[+]	-	+
<i>Morganella morganii</i> subsp. <i>morganii</i>	+	-	-	[-]	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-
<i>Providencia rettgeri</i>	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	[-]
<i>Providencia stuartii</i>	+	-	+	-	-	-	-	d	-	[+]	-	-	-	d
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	+	-	-	-	+	+	+	-	-	+	+	-	[+]	-

- : 0~10%が陽性, [-] : 11~25%が陽性, d : 26~75%が陽性, [+] : 76~89%が陽性, +90~100%が陽性.

※4 以下の表への差し替えをお願いいたします(*Trichosporon asahii*の性状を一部訂正)。

表 2-B-4 主な酵母および酵母様真菌の形態学的特徴および生化学的性状

菌種	ダルモ法での顕微鏡観察				(37°C, 48時間) クロモアガー・カンジダ培地上のコロニー	糖利用能										フェノールオキシダーゼ ウレアーゼ					
	仮性菌糸形成	真性菌糸形成	厚膜胞子形成	分節型分生子形成		サブローブロスでの発育	37°Cでの発育	表面形成	ブドウ糖	マルトース	白糖	乳糖	ガラクトース	メリピオース	セロビオース	イノシトール	キシロース	トレハロース	ラフィノース	トルハロース	スルシトール
<i>Candida albicans</i>	+	-	+	-	+	-	+	-	緑色	+	+	V	-	+	-	-	+	-	+	-	-
<i>Candida dubliniensis</i>	+	-	+	-	+	-	+	-	濃緑色	+	+	V	-	+	-	-	+	-	+	-	-
<i>Candida tropicalis</i>	+	-	-	-	-	-	+	+	青色	+	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-
<i>Candida parapsilosis</i>	+	-	-	-	-	-	+	-	白色	+	+	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-
<i>Candida guilliermondii</i>	+	-	-	-	-	-	+	-	薄桃色	+	+	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-
<i>Candida glabrata</i>	-	-	-	-	-	-	+	-	紫色	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-
<i>Candida krusei</i>	+	-	-	-	-	-	+	+	桃色 (ラフ型)	+	-	-	-	-	-	-	-	-	V	-	-
<i>Cryptococcus neoformans</i> / <i>C. gattii</i>	-	-	-	-	-	+	+	-	白~ 薄桃色	+	+	+ -	+	-	+	+	V	+	+	+	+
他の <i>Cryptococcus</i> 属	V	-	-	-	-	+	V	-		+	+	V	V	V	V	V	+	V	+	V	+
<i>Trichosporon asahii</i>	+	+	-	+	-	-	+		緑色	+	+	V	+	+	-	+	V	V	-	V	+
<i>Geotrichum candidum</i>	-	+	-	+	-	-	V	+		+	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-
<i>Rhodotorula mucilaginosa</i>	-	-	-	-	-	-	+	-	橙色	+	+	-	+	-	V	-	+	+	+	-	+

V: 菌株により異なる.

※5 以下の表への差し替えをお願いいたします(*Neisseria*のスペルを訂正)。

表 3-C-1 微生物検査に用いられる培地の組成と特徴

非選択分離培地

培地名	目的・重要な成分・特徴
ハートインフュージョン寒天培地	培地に血液の添加を必要としない <i>Staphylococcus</i> 属, <i>Enterococcus</i> 属, 腸内細菌科細菌, ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の培養に用いられる。血液寒天培地やチョコレート寒天培地の基礎培地として用いられる。
ブレインハートインフュージョン寒天培地	培地に脳浸出液を含み発育支持力が高い、血液を添加しないと発育できない <i>Streptococcus</i> 属や他の栄養要求性の厳しい菌の培養に用いられる。
トリプチケースソイ寒天培地	培地に血液の添加を必要としない <i>Staphylococcus</i> 属, <i>Enterococcus</i> 属, 腸内細菌科細菌, ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の培養に用いられる。血液寒天培地やチョコレート寒天培地の基礎培地として用いられる。
血液寒天培地	患者検体からの好気性および通性嫌気性菌の分離に用い、日常検査において最も頻用される。発育に血液の添加が必要な <i>Streptococcus</i> 属の培養に用い、溶血性 (α , β , γ) による菌種の鑑別にも用いられる。
チョコレート寒天培地	血液に含まれる易熱性の発育阻害物質を加熱によって破壊し、血液寒天培地に発育できない <i>Haemophilus</i> 属や <i>Neisseria gonorrhoeae</i> の培養に用いる。
チョコレート寒天培地（ヘモグロビン使用）	血液の代わりにヘモグロビンを用いたチョコレート寒天培地、ヘモグロビン単独では血液に比べて発育支持力が劣ることから、発育増強剤が添加されている。
BTB 乳糖寒天培地 (Drigalski (ドリガルスキ) 改良培地)	患者検体からの腸内細菌科細菌やブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の分離に用いる。乳糖を含み、乳糖分解菌は添加されている指示薬（プロムチモールブルー）によって培地の色調が黄色、非分解菌は青色となる。 <i>Staphylococcus</i> 属, <i>Enterococcus</i> 属, <i>Listeria</i> 属が発育するので、 <i>Streptococcus</i> 属との鑑別に有用である。
Bordet-Gengou (ボルダー・ジング) 培地	<i>Bordetella pertussis</i> の分離培地。 <i>B. pertussis</i> は培地中に含まれる発育阻害物質の影響を受けやすいため、ジャガイモ浸出液中のテンブンや高濃度に添加される血液中の赤血球が発育阻害物質を吸着する。 <i>B. pertussis</i> は本培地上で真珠様光沢のある S 型集落を形成し集落周囲に弱い β 溶血を示す。本培地以外に、活性炭（チャコール寒天培地）やシクロデキストリン（CSM 培地）を用いた培地がある。
B-CYE α 寒天培地 (buffered-charcoal yeast extract α -ketoglutarate agar)	<i>Legionella</i> 属の分離培地。必須栄養源として L-システイン、可溶性ピロリン酸鉄、発育促進剤として α -ケトグルタル酸を含む。発育至適 pH が 6.9 前後の狭い範囲であり、培地の緩衝性を高めるため ACES (N-2-acetamide-2-aminoethane sulfonic acid) が添加されている。
Löffler 培地 (Löffler (レフレル) の凝固血清培地)	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> の培養に用いる培地であり、異染小体の形成性に優れる。寒天の代わりにウマ血清が用いられる。 <i>C. diphtheriae</i> が疑われる株や偽膜を接種して培養する。
変法 GAM 寒天培地 (Gifu anaerobic medium, modified)	嫌気性菌全般の非選択分離培地である GAM 寒天培地を改良した培地。血液の添加を必要とせず多くの嫌気性菌が発育するが、 <i>Prevotella</i> 属や <i>Porphyromonas</i> 属の発育は劣る。
ABCム 寒天培地 (anaerobic bacterial culture medium)	嫌気性菌全般の非選択分離培地である GAM 寒天培地を改良した培地。血液の添加を必要とせず多くの嫌気性菌が発育するが、 <i>Prevotella</i> 属や <i>Porphyromonas</i> 属の発育は劣る。
ブルセラ血液 (RS) 寒天培地	嫌気性菌全般の非選択分離培地。ブルセラ寒天を基礎培地とし、ビタミン K ₁ とヘミンが含まれる。 <i>Prevotella</i> 属や <i>Porphyromonas</i> 属も発育し、ウサギ血液によって褐色～黒色の集落が形成される。
アネコロンビアウサギ血液寒天培地	嫌気性菌全般の非選択分離培地。コロンビア寒天を基礎培地とし、ビタミン K ₁ とヘミンが含まれる。 <i>Prevotella</i> 属や <i>Porphyromonas</i> 属も発育し、ウサギ血液によって褐色～黒色の集落が形成される。
卵黄加 CW 寒天培地	<i>Clostridium perfringens</i> の選択分離培地。 <i>C. perfringens</i> はレシチナーゼを産生して集落周囲が白濁する。

※6 以下の表への差し替えをお願いいたします(DHL寒天培地を全面改稿)。

選択分離培地・鑑別培地

培地名	目的・重要な成分・特徴
マンニット食塩培地	食塩耐性の性質を有する <i>Staphylococcus</i> 属の選択培地である。高濃度の食塩とマンニットを含み、 <i>S. aureus</i> はマンニットを分解し、指示薬であるフェノールレッドによって集落周囲が黄変するが、 <i>S. epidermidis</i> などのマンニット非分解菌の集落周囲は赤色となる。
MacConkey (マッコンキー) 寒天培地	患者検体からの腸内細菌科細菌やブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の分離に用いる。乳糖分解菌は乳糖が分解されて生じた酸によって析出した胆汁酸とニュートラルレッドが結合し集落が赤色に着色するが、乳糖非分解菌は透明な集落となる。 <i>Proteus</i> 属は胆汁酸によって遊走が阻止される。胆汁酸とクリスタルバイオレットによってグラム陽性菌は発育しない。
フェニルエチルアルコール(PEA) 血液寒天培地	グラム陽性球菌や嫌気性菌の選択分離培地。選択剤として含まれるフェニルエチルアルコールは、好気性グラム陰性桿菌の発育を抑制する。多種類の細菌が混在する検体からの分離に使用する。
NGKG 培地	<i>Bacillus cereus</i> の選択分離培地。環境からの菌分離に用いる。 <i>B. cereus</i> は本培地上で指示薬であるフェノールレッドによって黄色集落を形成し、レシチナーゼを産生し培地中の卵黄が分解され集落周囲が白濁する。
Thayer-Martin (サイラー・マー チン) 培地	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> と <i>Neisseria meningitidis</i> の選択分離培地。選択剤として抗菌薬 3 種(コリスチン、パンコマイシン、ナイスタチン)が含まれ、他菌の発育が抑制される。
ソルビトール MacConkey 寒天培 地	<i>Escherichia coli</i> O157 の選択分離培地。MacConkey 培地に含まれる乳糖をソルビトールに替えたものである。一般的な <i>E. coli</i> はソルビトールを分解しピンク～赤色集落を形成するが、 <i>E. coli</i> O157 はソルビトールを分解しないことから無色透明な集落を形成する。
DHL 寒天培地 (desoxycholate hydrogen sul- fide lactose agar)	乳糖と白糖を含み <i>Escherichia coli</i> は赤色集落、两者を分解しない <i>Shigella</i> 属は透明な集落を形成する。ペプトンとチオ硫酸ナトリウムを多く含み硫化水素産生が明瞭であり、 <i>Salmonella</i> 属は中心部黒色の透明集落を形成する。IPA 反応陽性菌は PPA 反応によって集落周囲が暗褐色となる。胆汁酸塩によってグラム陽性菌は発育せず、 <i>Proteus</i> 属は遊走が阻止される。
SS 寒天培地 (Salmonella-Shigella agar)	胆汁酸塩がクエン酸ナトリウムやチオ硫酸ナトリウムと相乗的に作用し、 <i>Salmonella</i> 属や <i>Shigella</i> 属よりも他の菌の発育を抑制することを利用した選択分離培地。 <i>Salmonella</i> 属や <i>Shigella</i> 属の糞便からの分離に用いられる。乳糖分解菌は乳糖が分解されて生じた酸によって析出した胆汁酸とニュートラルレッドが結合し集落が赤色に着色するが、乳糖非分解菌は透明な集落となるので、少数の乳糖非分解菌の存在が容易に観察できる。ブリアントグリーンは胆汁酸と協力し、グラム陽性菌の発育を阻止する。(培地の高压蒸気滅菌は不要。)
XLD 寒天培地 (xylose lysine desoxycholate agar)	乳糖と白糖の分解性に加え、キシロース分解性とリジン脱炭酸反応を利用した培地。乳糖、白糖非分解、キシロース分解の <i>Salmonella</i> 属はリジン脱炭酸によるアルカリ化によって中和され、硫化水素産生によって中心部黒色の透明な集落を形成する。 <i>Shigella</i> 属は乳糖、白糖、キシロースを分解せず、リジン脱炭酸反応陰性なので透明な集落を形成する。グラム陽性菌は胆汁酸によって発育しない。
CIN 寒天培地 (cefsulodin irgasan novobiocin agar)	<i>Yersinia</i> 属の選択分離培地。選択剤として含まれるセフスロジン、ノボピオシン、イルガサンによって他菌の発育は抑制される。 <i>Y. enterocolitica</i> は本培地上で、周囲が白色、中心部赤色の集落を形成する。
TCBS 寒天培地	<i>Vibrio</i> 属の選択分離培地。高い培地の pH (8.8) とチオ硫酸ナトリウムやクエン酸ナトリウムにより、 <i>Vibrio</i> 属以外の腸内細菌科細菌はほとんど発育しない。胆汁酸塩によってグラム陽性菌の発育も抑制される。 <i>V. cholerae</i> は白糖を分解し、指示薬であるプロムチモールブルーによって黄色集落を形成し、 <i>V. parahaemolyticus</i> は白糖を分解せず、プロムチモールブルーとチモールブルーによって緑色集落を形成する。(培地の高压蒸気滅菌は不要。)
Skirrow (スキロー) 寒天培地	<i>Campylobacter jejuni</i> や <i>Campylobacter fetus</i> の選択分離培地。糞便からの分離に用いるため、抗菌薬 3 種(パンコマイシン、ポリミキシン B、トリメトブリム)が選択剤として含まれている。
NAC 寒天培地 (nalidixic acid cetrimide medium)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> の選択分離培地。選択剤としてセトリマイドとナリジクス酸を含む。 <i>P. aeruginosa</i> は色素を産生し、黄緑色～青色または褐色の集落を形成する。(培地の高压蒸気滅菌は不要。)